

議題

企業会計基準委員会の最近の活動状況

1. 前回基準諮問会議(第 20 回、2014 年 3 月 18 日開催)後の企業会計基準委員会(ASBJ)の活動状況は次のとおりである。

1. 日本基準の開発

会計基準等の公表

2. 2014 年 5 月 16 日に改正企業会計基準第 12 号「四半期財務諸表に関する会計基準」及び改正企業会計基準適用指針第 14 号「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」を公表した。(資料(3)別紙 1)。

これは、2013 年 9 月に改正された企業会計基準第 21 号「企業結合に関する会計基準」において暫定的な会計処理の確定の取扱いが改正されたことに伴い、所要の改正を行うものであり、2014 年 2 月 25 日に公開草案を公表したうえで最終公表を行っている。

3. 2014 年 6 月 30 日に実務対応報告第 31 号「リース手法を活用した先端設備等投資支援スキームにおける借手の会計処理等に関する実務上の取扱い」を公表した。(資料(3)別紙 2)。

これは 2013 年 12 月 12 日に開催された第 277 回企業会計基準委員会において、基準諮問会議より ASBJ に新規テーマの提言がなされたテーマであり、2014 年 3 月 7 日に公開草案を公表したうえで最終公表を行っている。

上記以外の会計基準等の開発の状況

現在開発中のテーマ

4. 2014 年 1 月より、現在、日本公認会計士協会で作成されている税効果に関する実務指針について、ASBJ に移管すべく税効果会計専門委員会において審議を開始している。

これは 2013 年 12 月 12 日に開催された第 277 回企業会計基準委員会において、基準諮問会議より ASBJ に新規テーマの提言がなされたテーマである。

現在までの進捗状況については、資料(3)別紙 3 をご参照のこと。

5. 2014 年 6 月より、ヘッジ会計の限定的な見直しについて、金融商品専門委員会において審議を開始している。

これは、2014 年 3 月 27 日に開催された第 284 回企業会計基準委員会において、基準諮問会議より ASBJ に新規テーマの提言がなされたテーマである。

6. 2013 年 7 月より、実務対応報告第 18 号の見直しについて、実務対応専門委員会において審議を行っている。

資料(3)

これは、2013年3月29日に開催された第261回企業会計基準委員会において、基準諮問会議よりASBJに新規テーマの提言がなされたテーマである。

今後、検討を行う予定のテーマ

7. 以下については、基準諮問会議より新規テーマとしての提言を受けており、今後、検討を行う予定である。
 - 連結納税制度と企業結合に関する税効果会計の整合性
 - 「企業結合に関する会計基準」に係る条件付取得対価の取扱い

基準諮問会議からの依頼

8. 基準諮問会議からASBJに調査の依頼がなされた「リストラクチャリングに関連する会計処理の調査・検討」について検討を行った。詳細については、資料(1)-3のとおりである。
9. 基準諮問会議から評価依頼がなされている次のテーマ候補について、テーマアップに関する評価のために実務対応専門委員会を3回開催した。詳細については、資料(1)-2、(1)-4、(1)-5のとおりである。
 - 完全親会社が完全子会社に無対価会社分割で事業を移転する場合の会計処理
 - 指定国際会計基準を任意適用している会社において、親会社が子会社を吸収合併する際に子会社から受け入れる資産及び負債の適正な帳簿価額の考え方
 - 加速型自社株買い(ASR: Accelerated Share Repurchase)の会計処理

II. IFRS のエンドースメント手続

10. 2013年6月に企業会計審議会から公表された「国際会計基準(IFRS)への対応のあり方に関する当面の方針」を踏まえ、2013年8月よりIFRSのエンドースメント手続について、IFRSのエンドースメントに関する作業部会を設置し検討している。

現在まで、16回の作業部会が開催されており、進捗状況については、資料(3)別紙4をご参照のこと。

III. 国際対応

国際的な意見発信

11. 国際的な意見発信については、3 か月おきに開催される会計基準アドバイザー・フォーラム (ASAF) を中心に行っており、この間、平成 26 年 6 月に開催された ASAF に参加している。

平成 25 年 12 月に開催された ASAF において、当期純利益に関するペーパーを提出し議論が行われたが、その意見発信の続きとして、2014 年 5 月 23 日にショート・ペーパー・シリーズ「OCI は不要か？」を公表した。

また、現在、のれんの会計処理について、欧州財務報告諮問グループ (EFRAG) 及びイタリアの会計基準設定主体等と共同してリサーチを行っており、ディスカッション・ペーパー「のれんの償却及び減損の会計処理に関するアプローチ (仮称)」を公表する予定である。

FASB との定期協議

12. 米国財務会計基準審議会 (FASB) との第 16 回の定期協議を平成 26 年 3 月 31 日、4 月 1 日にノーウォークで開催し議論を行った。

コメント・レター等の提出

13. 前回の基準諮問会議の後、IASB 及び EFRAG の公開草案等に対する下記のコメント・レター等を提出した。
- 情報要請 適用後レビュー: IFRS 第 3 号「企業結合」に対する回答 (2014 年 5 月 30 日提出)
 - EFRAG ショート・ディスカッション・シリーズ「持分法: 測定基礎なのか一行連結なのか」に対するコメント (2014 年 6 月 17 日提出)
 - EFRAG リサーチ・ペーパー「財務諸表における事業モデルの役割」に対するコメント (2014 年 6 月 17 日提出)

その他

14. 平成 26 年 7 月 1 日に IASB の Alan Teixeira シニアディレクターが来訪され、意見交換を行った。
15. 上記に加え、IASB 関係者や EFRAG 関係者との間で、定期的にテレビ会議を開催し、意見交換や情報交換を行っている。

IV. その他

ASBJ オープン・セミナー

16. IASB の Sue Lloyd 理事、Henry Rees テクニカルディレクターにより、収益認識に関する会計基準及び金融商品に関する会計基準(分類及び測定、金融資産の減損等)に関する基準開発の動向に関するオープン・セミナーを2014年6月5日に東京にて開催した。

各地域における当委員会の活動状況の報告

17. 財務会計基準機構主催の四半期報告書セミナーの開催に合わせて、最近の当委員会の活動状況に関する説明を行った。開催地及び開催日は次のとおりである。
東京(6月11日、12日、13日)、大阪(6月16日)、名古屋(6月17日)、福岡(6月18日)、広島(6月19日)、金沢(6月19日)、高松(6月20日)、仙台(6月23日)、札幌(6月23日)。

以 上